

交野市教委ニュース

第89号（平成30年2月9日発行）

今年度最後の交野市小中一貫教育の協議会を開催しました

平成30年2月5日（月）に、ゆうゆうセンターにおいて第3回拡大交野市小中一貫教育モデル中学校区連絡協議会が開催されました。今年度、先進的に取組んだ交野が原学園の発表を中心に、後半はモデル学園（交野が原学園）の先生方と京都産業大学 西川教授とのパネルディスカッション。最後は、再び西川教授より今後の小中一貫教育というテーマで講演をしていただきました。

各学園（たなばた学園・星のまち学園・天の川学園）からの発表

たなばた学園からは、小6体験授業をはじめ小6合唱祭練習見学会、あいさつ運動及び校区小中学校でスマートフォン所持と活用に関するアンケートを実施した取組みを発表。星のまち学園からはこれまでの中学校体験授業とクラブ見学に加え、新たに小中合同あいさつ運動や中学2年生が小学6年生を対象に中学校についての講話を実施する職場体験授業の取組みを発表。天の川学園からは、校区小学校間交流をはじめ生徒会、児童会合同あいさつ運動や今年度から実施した6年生が第四中学校で1日過ごす中学校の日等の取組みの発表がありました。

これらの児童・生徒間の取組み以外にも教職員間における合同研修会や9ヶ年の教育課程（カリキュラム）の編成に向けた取組みの発表もあり、どの学園も小中一貫教育へ向けて学園の特色に合わせた取組みを進めています。



モデル学園（第一中学校区）の発表とパネルディスカッション

モデル学園として取組んだ交野が原学園からは、カリキュラム作りのために発足したプロジェクトA（11のワーキングチーム）による実践と、プロジェクトB（教科のカリキュラムの作成）における実践を中心に発表があり、教職員同士の相互理解が深まったことや、会議を通して小中の教科間の連携が進んだという説明がありました。また小中の繋がりだけでなく、小小の繋がり的重要性を認識することで、授業規律や学習のルール等、学校同士の差を少しでも小さくするための議論が進んだことなどの話しもありました。

さらに児童・生徒間交流を進めることで「カッコいい中学生の姿」を小学生に見せることができ小学生が中学校に進学することに対する不安を少なくして「夢や希望」を持たせることができたとの成果の発表もありました。



京都産業大学 西川 信廣氏による講演

西川教授からは、他市や他府県における小中一貫教育の事例の紹介と全国レベルにおける小中一貫教育の現状をお話いただき、今後の小中一貫教育へ向けての具体的方策のご示唆をいただきました。

